

シニアのゲンキで マチが輝く!! 😊

＜＜少子高齢社会のなか、豊富な経験や技術をもつシニアの方々が、生涯を通じて仕事や地域活動、生涯学習・スポーツなど、さまざまな分野でイキイキと活躍できる社会（生涯現役社会）づくりが望まれ、今日特に「団塊世代」にスポットが当たっています。お元気なシニア・団塊世代がたくさんいらっしゃることで、活気にあふれる地域社会となっていきます。そこで、お元気なシニア世代の方々に、シリーズでご登場いただきます。

■人間みんな平等

私はいつも、首から小さな時計をさげています。神様は、すべての人に24時間という「時」を与えてくださいました。その「時」を一生のうち、いかに使いこなすかは、人それぞれの価値観によって違います。ダラダラと一日を過ごす人、セカセカと忙しく働く人、そんなはずではなかったのに突然の交通事故や病に倒れ一生を人のお世話になって暮らす人、ボランティアで世界中を駆け回っている人…。

私は、分けて言えば、セカセカと忙しく働いている部類に入るのではないかと思います。時計を首からぶらさげて時間を気にしているわりには、携帯電話はいつも不携帯と友人にナジられながら、少しの暇を見つけてはボランティア活動に参加しています。

民生委員児童委員にたずさわっていると、お年寄りとふれあう機会が多く、人生について学ばせていただくことが多々あります。「あなただったら老後をどのように暮らしたいですか」という問い掛けに対して、万人が『元気で楽しく暮らしたい』と望むことでしょう。しかし、形あるものが壊れるように、生命には限りがあります。長寿社会ですが、単に長いだけでは無意味ですよね。生



今日も時計とバッグを抱えて。

民生委員児童委員 **藤本絹枝さん (62)**
Kinue Fujimoto

きている一刻一刻が自分のものだから、しかも楽しいと感ずることが大切です。

そのためには、社会参加をすることでしょう。私にも、92歳でひとり暮らしをしている母がいます。昨年までは、畑に四季折々の野菜を作り、楽しく土に触れていましたが、歳には勝てないと、週に1回、ヘルパーさんの食事サービスを受けながら元気で暮らしています。母に「楽しいですか?」とたずねると、“少し長生きし過ぎた”と笑いますが、あの歳になってひとり暮らしができるだけでもスゴイことであり、少しの手助けでお返しをしているつもりです。

■ハンドバッグの中身

昭和61年の男女雇用機会均等法の施行で、女性も強くなりました。しかし、「女がハンドバッグを抱えて歩いている間は、ほんの半歩だが男より後ろを歩いているような気がする」と、航空機事故によって台北で

亡くなられた作家、向田邦子さんが言っていました。

私は思うのですが、たぶん私は半歩譲って奥ゆかしく、後ろから男性を支えているのではないのでしょうか。「男女が共に人間らしく生きる権利」というのは、おたがいが支え合い作っていくものだと思います。

こう考える私は、古い人間なのではないのでしょうか。私は、女性に生まれてきてよかったと思います。だって、ハンドバッグが大好きですもの。男性の方はきっと、男に生まれてきてよかったと思われることでしょう。

私は今日も、ハンドバッグを抱え、時計を首からぶらさげて地域の中を小走りに駆け回り回っています。さて、バッグの中身は、家庭という宝物でしょうか。それとも、キャリアウーマンの夢でしょうか。

